

## RXファミリ用E1/E20エミュレータデバッグご使用上のお願い

RXファミリ用E1/E20エミュレータデバッグの使用上の注意事項を連絡します。

- 内蔵ROM領域を書き換えるプログラムをデバッグする場合の注意事項

### 1. 該当製品

以下の製品が該当します。

- CubeSuite+ V.1.01.00に含まれる RX用E1/E20エミュレータデバッグ
- RX E1/E20エミュレータデバッグ V.1.02.00  
(統合開発環境High-performance Embedded Workshop用)

### 2. 内容

内蔵ROM領域を書き換えるプログラムをデバッグする際、以下の問題が発生する場合があります。

- (1) イリーガルコマンドエラーが発生し、正常にフラッシュ書き換えができない場合がある。
- (2) バスエラーが発生する場合がある。

イリーガルコマンドエラーは、FCUが不正なコマンドや、不正なROM/E2データフラッシュアクセスなどを検出した場合に発生するエラーです。  
その場合、FSTATR0.ILGLERRビットが"1"になります。

### 3. CubeSuite+ V.1.01.00 の場合

#### 3.1 イリーガルコマンドエラーが発生する問題 (2(1)項)

発生条件 :

RX630、RX63N/RX631 または RX210グループ MCUで、

プログラムROMを書き換えるプログラムを実行した場合に発生します。

**回避策：**

プログラムROMを書き換えるプログラムをデバッグする場合は、以下のWebサイトから弊社へ相談ください。

技術問合せ：<https://www.renesas.com/support/contact.html>

**恒久対策：**

V.1.02.00で改修する予定です。

⇒ CubeSuite+ V1.02.00 (2012年5月21日リリース) で改修しました。(2013/1/16情報追加)

### 3.2 バスエラーが発生する問題 (2(2)項)

**発生条件：**

プロパティパネルの「デバッグ・ツール設定」タブで「内蔵プログラムROMを書き換えるプログラムをデバッグする」または「内蔵データフラッシュを書き換えるプログラムをデバッグする」を「はい」に設定して起動し、バスエラー監視許可レジスタで不正アドレスアクセス検出を許可に設定している場合、以下のいずれかの処理を実行すると発生します。

- (1) 内蔵ROM領域へダウンロードする。
- (2) 内蔵ROM領域へソフトウェア・ブレークを設定してプログラムを実行する。

**回避策：**

不正アドレスアクセス検出は使用しないでください。使用する場合は、以下を実施してください。

- (1) 内蔵ROM領域へダウンロードした後は必ずリセットを実行する。
- (2) 内蔵ROM領域へブレークポイントを設定する場合はハードウェア・ブレークポイントを使用する。

以下の手順でブレークポイントの種類を設定する。

プロパティパネルの「デバッグ・ツール設定」タブ上の「ブレーク[E1][E20]」カテゴリで、優先的に使用するブレークポイントの種類をハードウェア・ブレークに設定する。

設定したブレークポイントの種類は、逆アセンブルパネルのイベントエリア、またはイベントパネルの名前エリアで確認できます。

**恒久対策：**

V.1.02.00で改修する予定です。

⇒ CubeSuite+ V1.02.00 (2012年5月21日リリース) で改修しました。(2013/1/16情報追加)

## 4. RX E1/E20エミュレータデバッグ V.1.02.00の場合

### 4.1 イリーガルコマンドエラーが発生する問題 (2(1)項)

**発生条件：**

RX630、RX63N/RX631またはRX210グループMCUで、以下のいずれかの状態で、プログラムROMを書き換えるプログラムを

実行した場合に発生します。

- (1) メニュー「表示」から CPU -> ステータスを選択してステータスウィンドウを開く。
- (2) メニュー「表示」から イベント -> パフォーマンス条件設定を選択しパフォーマンス条件設定ウィンドウで「一度だけ計測」にチェックを入れる。
- (3) メニュー「表示」から イベント -> オンチップブレイク条件を選択し、オンチップブレイク条件設定ダイアログボックスでイベントを設定した状態で、ANDタブまたはシーケンシャルタブを開く。
- (4) メニュー「表示」から イベント -> トレース条件設定を選択し、トレース条件設定ダイアログボックスでイベントを設定した状態で、トレース取得開始タブを開く。

回避策：

プログラムROMを書き換えるプログラムをデバッグする場合は、以下を実施してください。

- (1) ステータスウィンドウを閉じた状態でプログラムを実行する。
- (2) パフォーマンス条件の「一度だけ計測」は使用しない。
- (3) オンチップブレイク条件設定ダイアログボックスのANDタブまたはシーケンシャルタブを閉じた状態でプログラムを実行する。
- (4) トレース条件設定ダイアログボックスのトレース取得開始タブを閉じた状態でプログラムを実行する。

恒久対策：

改修時期を検討中です。別途、ツールニュースで案内する予定です。

⇒ RX E1/E20エミュレータデバッガ V.1.03.00 (2012年10月16日リリース) で改修しました。(2013/1/16情報追加)

## 4.2 バスエラーが発生する問題 (2(2)項)

発生条件：

デバッガ起動時の設定で

「内蔵プログラムROMを書き換えるプログラムをデバッグする」または「内蔵データフラッシュを書き換えるプログラムをデバッグする」にチェックを入れて起動し、バスエラー監視許可レジスタで不正アドレスアクセス検出を許可に設定している場合、以下のいずれかの処理を実行すると発生します。

- (1) 内蔵ROM領域へダウンロードする。
- (2) 内蔵ROM領域へS/Wブレイクポイントを設定してプログラムを実行する。

回避策：

不正アドレスアクセス検出は使用しないでください。使用する場合は、以下を実施してください。

- (1) 内蔵ROM領域へダウンロードした後は必ずリセットを実行する。
- (2) 内蔵ROM領域へブレイクポイントを設定する場合はオンチップブレイクポイントを使用する。

恒久対策：

改修時期を検討中です。別途、ツールニュースで案内する予定です。

⇒ RX E1/E20エミュレータデバッグ V.1.03.00 (2012年10月16日リリース) で改修しました。(2013/1/16情報追加)

---

**[免責事項]**

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

© 2010-2016 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.